

「不登校、家庭内暴力など思春期症の予防と治療」の啓発を目的とした地域実践活動

奥村弓恵¹⁾、軒名桃子²⁾、堀川ゆかり³⁾、濱野宏亮⁴⁾、根本忠典¹⁾、太田秀造⁵⁾

1) 内観療法士・心理士、2) 内観療法士・指導員、3) 法人総務部・かるた療法士、4) 看護師、5) 医師
医) 札幌太田病院

1. はじめに：当院は、'74年に内観療法を採用後、当時は稀であった不登校・シンナー乱用などの治療にあたった。近年は、家庭不和・いじめられ、不登校、ひきこもり、家庭内暴力、リストカット、摂食障害、うつ、薬物依存などが、重層化、重症化する症例が増加している。思春期症例には、小弓道、ミニダーツ、病棟内内観療法、家族療法、学習指導、学校と連携し通学支援など改善しながら継続している。また、思春期症の予防、家庭円満、一般の啓発、治療法の普及活動のため、以下の地域活動を実践している。薬物を少なく抑えうる内観（認知行動）療法の普及に強めている。

2. 当院の社会奉仕活動：病院・職員・受療者・家族・一般社会人・医療系学生が相互に成長する場。思春期の『こころ』の講演・相談会(1991年～)：思春期症の早期発見・解決を目的に、毎年、札幌市教育文化会館で、回復体験者・家族の発表、当法人職員・医療関係者の研究・講演発表など。平成22年(第25回)では全参加数252人、うち一般86人(医療関係123人、退院者43人)と増加した。40～50代の参加者が全体の46%を占め、子育てで悩む親の増加が窺える。アンケートでは「体験談に感動した」、「外部講師の話が良かった」、「休憩時間が足りない」などが多い。個別相談コーナーでは、平成20年は4件が、平成22年(第25回)では8件と増加した。

ピア・サポート活動(1974年～)：当院では、回復者同志による受容・共感、趣味・特技を活かしたピア・サポート活動を実践している。学校、銭湯、ショッピングモール、老人保健施設、更に、「青少年自然の家」や「大雪青年の家」などを訪問し、小弓道療法士、ミニダーツ療法士、かるた療法士などを養成し、上記症状の改善、解決に有効な明るく楽しいプログラムに参加する。

思春期症回復者が、地域町内会・高齢者福祉センター、介護予防センターに出張してiPad教室を実施。老人保健施設に幼稚園児童、小・中学・高校生を招いて交流を図る。

小学生・中学生・医療系教育機関学生、札幌医大・旭川医大学生への見学実習施設として公開。臨床現場で、人格形成と家庭環境、親のあり方、心の健康、悩みの解決法、治療法、などを体験。

マスコミへの協力：頻度は低いが北海道新聞、読売新聞、NHKTVなどの取材希望には協力する。

再発防止と就労支援：ワークステーション、薬物依存支援「リボンハウス」、NPO法人「つばき会」、西警察署と共催で「飲酒運転撲滅運動」を、薬物依存症の支援施設「リボンハウス」運営など。

3. 健全な家庭・学校・地域社会に向けて

これまでの市民講座では、一般参加者は全体の約34%である。他は医療従事者、学校職員、専門家などが多く、今後は一般の親子などが参加しやすい雰囲気作りが必要である。

不登校、ひきこもり、家庭内暴力、非行、摂食障害、酒・薬物依存症例では、乳幼児・学童期に親子の信頼関係を損なう体験が多く、親や友人との信頼関係回復が治療の要点でもある。精神的に健全な子を育てるための若い親への教育・環境整備、さらには、婚前に「親になることの意味」の教育が重要と考える。更に、学校やPTA活動を通じての親への啓発活動が必要と思われる。地域ぐるみの協力のもと非行防止運動が、早期発見や防止に有効と考え、これからも思春期症の予防、早期発見、治療法の普及活動を、家庭、行政、教育、保健医療などに向けて、継続していきたい。